

発行

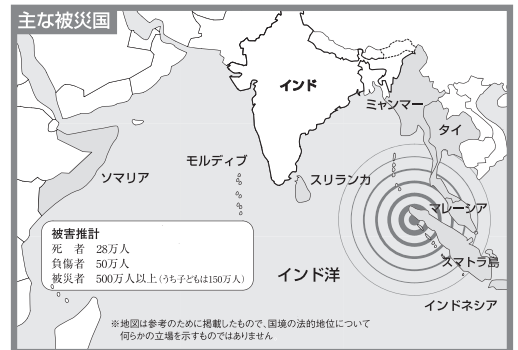
財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034 Email:se-jcu@unicef.or.jp
ホームページ <http://www.unicef.or.jp> 募金口座◎郵便振替・00190-5-31000・(財)日本ユニセフ協会

スマトラ沖地震・津波緊急支援90日間

昨年12月26日の朝にインドネシアのスマトラ島沖で発生した大地震と大津波は、インド洋沿岸の国々に甚大な被害をもたらしました。ユニセフは津波の被害から子どもたちを守るため、他の支援機関、団体と連携し、感染症の予防、子どもたちが学校に通えるようにすること、被災者が医療ケアを受けられるようにすること、トラウマの治療、安全な環境の整備などの活動を展開しました。

500万人以上の被災者に対し、各国からの支援は迅速で規模が非常に大きいものでした。2005年3月15日時点で、ユニセフには4億4,200万米ドル（3月25日現在、日本ユニセフ協会には27億9,943万567円）の支援が寄せられ、多くの学校からも温かいご支援をいただきました。心よりお礼を申し上げます。皆様のご支援でユニセフが行った活動についてご報告します。



ベラミー事務局長、ユニセフスタッフ一丸となって支援を実施

スマトラ沖地震・津波による被害は19世紀以降の天災の中でも最大級のもののひとつです。死者・行方不明者は28万人にも達し、家を失った避難民の数は1,200万人以上、被災した子どもの数は150万人以上となっています。ユニセフは被災した子どもたちを守るために、地震の発生直後から活動を開始しました。

キャロル・ベラミー・ユニセフ事務局長（当時）は、1月2日、国連機関の長として最初に、スリランカのコロンボに到着。すぐに同国東海岸と南部の被災地を、翌3日には北部の被災地を訪問しました。ユニセフ現地事務所のスタッフや現地政府機関



バンダアチェの避難民キャンプで子どもたちと遊ぶプログラムコーディネーター（インドネシア）

©UNICEF/HQ05-0320/Josh Estey

等と、今後の救援活動について協議し、同夜インドネシアに向かいました。

ベラミー事務局長の精力的な陣頭指揮のもと、ユニセフは被災国であるインドネシア、スリランカ、モルディブなどの各国事務所、東アジア・太平洋地域事務所、南アジア地域事務所などから600人以上のスタッフを投入し、不眠不休で活動を続けました。この3カ月間にわたる活動で、2,000トンに及ぶ飲料水、医薬品、食料などの生活物資を届け、次のような結果につながりました。



ポリオの予防接種を受ける赤ちゃん（モルディブ）
©UNICEF/HQ05-0254/Giacomo Pirozzi

- 予防可能な病気で死亡した子どもはごくわずかに抑えられた
- インドネシアやスリランカの最も被害の大きかった地域でも、ほぼ1カ月以内に80-100%の子どもが学校に戻ることができた
- 多くの被災者が清潔な水を得ることができた
- 家族と離れ離れになってしまった子どものほぼ全員が保護を受けている

ユニセフの支援活動－4つの重点事項

ユニセフは下記の4つの重点事項を中心に活動を展開し、共に活動する支援機関やNGOなどにも、この4点を優先的に考え活動するように呼びかけました。

①子どもの生存を守る

- ・避難民のキャンプや学校に安全な飲料水を提供
- ・衛生的なトイレを設置
- ・伝染病を防ぐための衛生教育の実施
- ・予防接種を実施
- ・免疫力を高めるためのビタミンAを提供

②家族との再会を支援する

- ・子どもセンターを設置
- ・家族と離れ離れで暮らす子どもの名前、写真、住んでいた場所、家族、出身地、離散した場所などをデータベース化
- ・親と子の情報を照合し、親元や親戚の元に返す活動をNGO等と一緒に実施

③子どもを搾取から守る

- ・身寄りを失った子どもを人身売買や暴力、過酷な労働による搾取から守るため、子どものリストを作成
- ・地元の警察や地域社会のリーダーと協力し、子どもの安全を確保する体制作りを支援

④傷ついた心のケア

- ・心に深い傷を負った子どものケアをする先生やカウンセラーのためのトレーニングを実施
- ・子どもの心の傷を癒すために学校の再開が重要なため、津波のすぐ後に臨時の教室を設置
- ・80人分の学用品などが入った『学校セット』を提供



左：ユニセフ支援の子どもセンターでは親を探す子どもの情報が掲示されている(インドネシア)
©UNICEF/HQ05-0327/
Josh Estey
右：バンダアチェの避難民キャンプの木陰で、授業を受ける子どもたち(インドネシア)
©UNICEF/HQ05-0323/
Josh Estey



届けられた支援

被災地の子どもたちに届けられた支援は次の通りです。

	インドネシア	スリランカ	インド	ミャンマー	モルディブ	タイ	ソマリア	マレーシア
学校セットが届いた子どもたち	301,950人	24万人	71,444人	30,000人	16,000人	141,000人	589人	被災地の12校が再開
学校に戻った子どもたちの割合	90%	85%	(未集計)	(未集計)	95%	95%	(未集計)	(未集計)
レクリエーションキットが届いた子どもたち	(未集計)	81,000人	40,760人	42,400人	24,000人	(未集計)	589人	(未集計)
ビタミンAの投与を受けた子どもたち	238,384人	(未集計)	107,857人	(未集計)	35,000人	(未集計)	1,728人	13の避難所で5,200人分の乳幼児食を提供
予防接種を受けた子どもたち	238,384人	(未集計)	109,179人	(未集計)	11,000人	(未集計)	1,728人	(未集計)
簡易トイレが届いた人々 (1トイレ/20人が使うとして)	20万人	87,160人	267,000人	2,050家族	(未集計)	2,000人	(未集計)	13の避難所で5,200人分の衛生キットを配布
安全な水が届いた人々 (1日1人/15ℓ使用として)	40,000人	72,500人	69万人	15,000人	10万人	2,000家族	4,500人	(未集計)
保健キットが届いた人々	55,000人	15万人	(未集計)	(未集計)	(未集計)	(未集計)	(未集計)	(未集計)

* 各国の状況が異なるため、報告内容も各国ごとに異なっています。
上記の内容が支援のすべてではありません。

* 上記は地震・津波被害に対するこの3ヶ月間の緊急・復興支援の内容であり、通常実施されている支援活動等は含まれていません。

出典：国連ホームページ



泣きじゃくる母親に抱かれる息子。
娘は津波で流された(モルディブ)

©UNICEF/ HQ05-0248/Giacomo Pirozzi



津波の被害を受けた自分の家を訪れる兄弟(モルディブ)
©UNICEF/ HQ05-0246/Giacomo Pirozzi

スマトラ沖地震・津波 緊急・復興募金にご協力を!

今年3月28日、スマトラ沖で再びマグニチュード8.7の大地震が起こり、多くの被害が出ました。ユニセフはこの被害に対しても支援を行っており、子どもたちが1日も早く通常の生活に戻れるように復興支援活動を続けていきます。今後ともユニセフにご支援をよろしくお願いいたします。

郵便振替:00190-5-31000

口座名義:財団法人日本ユニセフ協会

通信欄に「スマトラ」と記入してください。

* 送金手数料は「加入者負担」としてください